

まちづくりの方針A

私たちは「独自の歴史・文化を活かし、多様な交流と満足を生み出すまち」をめざします

ページ数

- A1 地域の個性を守り、伝え、活かします.....3
- A2 交流のための都市機能を高め、賑わいを創出し、観光まちづくりを進めます..... 5
- A3 国際交流を推進し、互いの文化を理解することで、国際性を豊かにします..... 7

※白紙ページ

施策 A1

地域の個性を守り、伝え、活かします

◆2030年度にめざす姿（なにが どうなっている）

文化財課

歴史文化遺産・ 景観・自然が	かけがえのない個性として大切に守られ、伝えられ、活かされている。
-------------------	----------------------------------

◆現状分析と取組みの方向性

- うまくいっていること、強み、チャンス
- 2つの世界遺産をはじめ多様で多くの歴史文化遺産とこれらを展示公開する博物館等の歴史文化施設があり、各種補助制度の活用による旧長崎英国領事館、旧マリア園（ホテル開業）、出島など文化財の保存整備が進むことで、長崎の歴史文化を体感できる機会の創出や施設の充実が進んでいる。
- 長崎の歴史を学びたいという市民ニーズに応えるために「ながさき歴史の学校」や「長崎学ネットワーク会議公開学習会」を開講し、市民に学びの場を提供できているとともに、長崎学ネットワーク会議において民間の歴史研究団体等との連携が図られている。
- ながさきデザイン会議や景観専門監の助言等により大規模建築物や公共施設のデザインが向上し、良好なまちなみ形成に繋がっており、また東山手・南山手地区においては、長崎市歴史的風致維持向上計画が国の認定を受け、官民共同の歴史まちづくり計画を策定した。

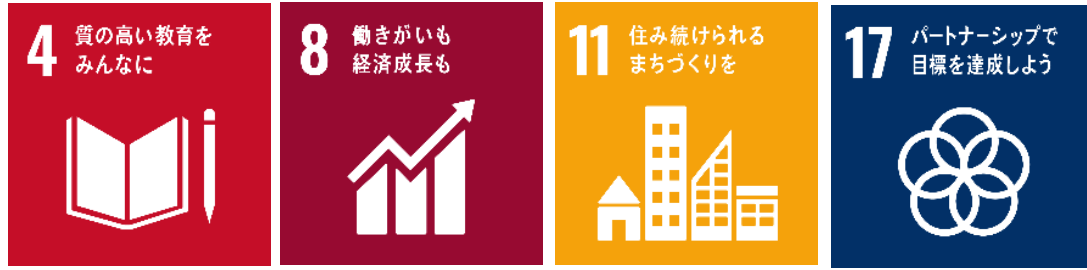
- うまくいっていないこと、弱み、脅威
- 有形無形を問わず文化財の保存・整備・継承には多くの財源と技術者を要するが、費用の増大や少子高齢化による後継者不足により保存・整備・継承が困難となっているものがある。
- 歴史文化施設において市民や来訪者のニーズと合致した効果的な情報発信や常設展示の見直しが十分でない。
- 市民や職員の景観に関する意識醸成は一定図られているが、指導を要する場合があり、また条例違反となっている屋外広告物について一定改善はしているが、指導は継続していく必要がある。

- 取組みの方向性
- ①長崎独自の歴史文化の保存・継承と活用・魅力発信
- ・多様で多くの文化財を適切に保護するため、指定等を推進するとともに、洋館などの有形文化財、出島などの史跡及び世界遺産の構成資産、伝統芸能などの無形文化財等の保存・整備・継承を計画的に行います。
- ・歴史文化遺産の活用にあたっては、その特性・価値を活かしながら、広く民間と連携・協力し、より魅力的で効果的な企画・運営等となるよう検討を進めます。
- ・2つの世界遺産や歴史文化施設の、展示や多言語を含む丁寧な案内表示と情報提供の充実や、長崎の歴史文化を学ぶことができる仕組みをつくることで、こどもから大人まで幅広い世代の理解促進を図ります。
- ②地域の特色ある景観の保全・活用
- ・良好な景観形成に関して、景観法に基づく景観計画の適切な運用のため、景観条例や屋外広告物条例による助言・指導を行います。
- ・景観専門監やながさきデザイン会議などによる助言・指導のほか、職員の景観に関する研修を行い、公共空間のデザイン性向上を図ります。
- ・地域の自然や風土を活かしたまちの魅力向上と、「長崎独自の歴史や伝統を反映した人々の営みと一体となって形成された良好な市街地の環境」いわゆる歴史的風致をみがき活かしていきます。

◆成果指標

指 標 名	基準値	目標値
文化財の指定等件数[累計]	255件	258件
主要な歴史文化施設を訪れたことがある市民の割合	69.3%	69.8%
長崎の街並みや景観に誇りを感じる市民の割合	86.8%	90.0%

◆関連するSDGs



◆連携して進める主な施策

C1	地場事業者の成長を支援します
----	----------------

◆関連する総合戦略

基3・(3)	地域資源を活かした魅力あるまちづくり
--------	--------------------

◆施策イメージ画像



【国宝崇福寺第一峰門】



【明治日本の産業革命遺産（端島炭坑）】



【地域の特徴を活かした整備】

交流のための都市機能を高め、賑わいを創出し、観光まちづくりを進めます

観光政策課

◆2030年度にめざす姿（なにが となっている）

訪問客・事業者・市民が	交流を通して、ともに満足している。
-------------	-------------------

◆現状分析と取組みの方向性

うまくいっていること、強み、チャンス

○長崎市、DMO、(株)ながさきMICE、市内事業者が連携したMICE誘致・受入が進んでいる。

○観光まちづくりを発展的に進めるための持続的な財源として、令和5年度に宿泊税を導入し、プロモーションや受入環境の整備などに活用されている。

○九州新幹線西九州ルートや長崎スタジアムシティの開業などにより、インバウンドをはじめとした観光客の来訪者数が増加傾向である。

○DMOが「観光地域づくり」の舵取り役を担い、マーケティング等を活かし、エビデンスに基づいた事業を推進している。

うまくいっていないこと、弱み、脅威

○インバウンド誘致については、受入態勢の充実、高付加価値化による消費単価の向上及び広域的な連携などによる戦略的なプロモーションが不足している。

○快適な周遊を行うための二次交通の利便性向上を図る必要があるものの、人口減少などによる利用者の急減により交通事業者の収益が悪化し、新たな設備投資が難しい状況となっている。

○閑散期対策が不足している。

○MICE誘致において、経済波及効果を高めるための中規模以上の医療系会議やMICE都市としてのブランド力を高める国際会議の誘致が必要。

取組みの方向性

①魅力あるコンテンツの創造と滞在環境の充実

・多様な関係者を巻き込みながら、顧客ニーズを捉えた資源磨きやコンテンツの高付加価値化を進めるとともに、二次交通のバリアフリー化や先進的な技術の積極的な導入を官民一体となって推進し、訪問客の滞在満足度や旅行消費額を高めます。

②戦略的な魅力発信と誘致活動の推進

・ターゲットの選定や発信時期など効果的なプロモーションを行い、閑散期の誘客を促進します。

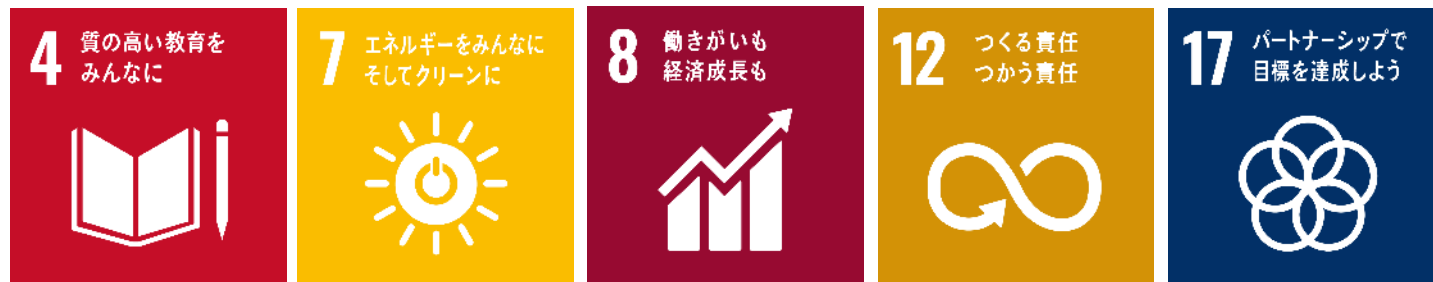
③観光・MICE関連産業の活性化

・訪問客の滞在時間の延長や市内周遊促進、地元事業者のMICE業務の受注拡大等、域内消費につながる取組みを進めながら、事業者の稼ぐ力の向上を図ります。また、宿泊税の有効活用を図ることにより、引き続き発展的な観光まちづくりを進めます。

◆成果指標

指 標 名	基準値	目標値
旅行消費額	2,131億円	調整中
MICE消費額	185億円	調整中
訪問客の満足度	94.8%	調整中
事業者の満足度	32.2%	調整中
市民の満足度	66.7%	調整中

◆関連するSDGs



◆連携して進める主な施策

C1	地場事業者の成長を支援します
D1	ゼロカーボンシティ長崎の実現に向けた取組みを進めます
G1	新たな時代を生き抜く子どもを育みます

◆関連する総合戦略

基1・(3)	交流の進化
--------	-------

◆施策イメージ画像



【グラバー園】



【出島メッセ長崎】

◆2030年度にめざす姿（なにが となっている）

多様なルーツを持つ人も含め市民が	世界の人と活発に交流している。
------------------	-----------------

◆現状分析と取組みの方向性

うまくいっていること、強み、チャンス

○姉妹都市・市民友好都市や関係機関との連携により、異なる文化や言語に直接触れ、関心・理解を深める機会が提供できている。

○国際ボランティアの登録者数が増加傾向にあり、また、留学生との協働や外国人コミュニティを中心としたイベントの開催など、市民レベルで異文化理解を深める環境が整いつつある。

○市内在住の外国人数がコロナ禍前の水準に回復し、在留資格の状況に変化がみられ、国の制度も見直されてきており、受入れ企業をはじめ地域の多文化共生の意識が高まりつつある。

○情報通信技術の進展に伴い、多言語配信や翻訳などが充実してきている。

うまくいっていないこと、弱み、脅威

○国際交流・国際理解の機会となるイベントや講座への参加者数が伸び悩んでいる。

○外国人住民の国籍や文化が多様化し、暮らしの情報や災害に備えるための情報発信に多言語での対応が求められる中、有効なツールの活用が充分できていない。

○市内在住の外国人と接する機会が多くないことなどから、ニーズを充分把握できていない。

○外国人留学生数は増加している一方、県内の大学を卒業した留学生の県内就職率が伸び悩んでいる。

取組みの方向性

①国際交流・国際理解の機会充実

・姉妹都市・市民友好都市や関係機関と連携し、国際交流や国際理解の機会の充実を図り、市民が世界の人と活発に交流しているまちづくりに取り組みます。

②多文化共生の地域づくり

・やさしい日本語の普及や有効なツールの活用を図ることにより、災害情報や行政手続きを含め、生活情報を入手しやすくし、外国人住民が安心して生活できる、多文化共生の地域づくりを進めます。

③グローバル人材の育成と活躍促進

・グローバルな視点を持った人材の育成や、外国人材などが活躍できる機会を創出し、国際性豊かなまちづくりを推進します。

・国際理解教育の充実を通して、国際性豊かで、長崎を愛する心を持ち、まちを支えるグローバルな視点を持った人材の育成を図ります。

◆成果指標

指 標 名	基準値	目標値
外国人留学生数	1,193人	1,570人
国際交流イベント・国際理解に係る講座への参加者数	3,731人	3,731人

◆関連するSDGs



◆連携して進める主な施策

B2	核兵器廃絶の実現に向け行動するとともに、平和の文化を醸成します
C1	地場事業者の成長を支援します
G1	新たな時代を生き抜く子どもを育みます

◆施策イメージ画像



【セントポール市との交流】



【初級日本語講座】



【子どもゆめ体験】